

1. 授業のねらい・概要

生産、営業、販売、サービスなどの分野に必要なマネジメント手法（管理手法）を対象とし、「生産のグローバル化」に対応するマネジメント・システムを構築する考え方と具体的方法を講義する。学習の到達目標は、品質、費用、納期を基準とし、マネジメントに必要な考え方と管理手法を理解し、代表的な企業のマネジメントの特徴を理解することである。

企業活動のねらいは、顧客のニーズ（品質、費用、納期等）を把握し、ニーズにあった製品やサービスをタイムリーに提供し、顧客を満足させることにある。多種・多様な顧客のニーズに対応するには、コンピュータ利用が不可欠である。品質（Q）、費用（C）、納期（D）をマネジメントの基準とし、管理システムを設計する「基本的な考え方」と「具体的なマネジメント手法」を概説する。

2. 授業の進め方

講義形式で進める。企業での具体例を挙げながら管理手法を説明する。管理手法のねらいと考え方を重視した説明を行う。

3. 授業計画

1. 会社のしくみ、モノづくりのしくみ	9. 工程管理
2. 経営と生産と生産価値	10. 資材管理
3. 生産管理の体系	11. 設備管理
4. 生産のしくみ	12. 労務管理
5. 品質管理（1）品質管理と TQM と ISO9000s	13. 作業管理
6. 品質管理（2）統計的品質管理	14. 生産のグローバル化とコンピュータ化
7. 中間まとめ	15. まとめ
8. 原価管理	

4. 到達目標

品質、費用、納期を基準とし、マネジメントに必要な考え方と管理手法を理解し、代表的な企業のマネジメントの特徴を理解させる。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

予習・復習に1時間程度。

6. 成績評価の方法・基準

成績は、試験成績、レポート内容、授業への取り組み姿勢の総合評価とする。レポート等の提出遅れは減点する。

7. テキスト・参考文献

テキスト：泉英明、『わかりやすい生産管理 基礎が身に付く 15 講義』、日刊工業新聞社、2015 年。

ISBN978-4-526-07351-9。

必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考文献：田村隆善 他、『新版生産管理システム』、朝倉書店、2012 年。

8. 受講上の留意事項

毎回出席をとる。出席用紙に自分の名前を書く。サインで本人を確認する。品質、費用、時間（納期）、すなわち QCD のマネジメントに関心ある学生と対象とする。理論と共に実践を主体とする。質問等は、授業中、あるいは授業終了後に。office hour は特に設定しない。